

## 広島藩大坂蔵屋敷跡発掘調査（H S 0 0 - 1 次）現地説明会資料

平成13年2月4日（日）

大阪市教育委員会

（財）大阪市文化財協会

大阪市教育委員会と（財）大阪市文化財協会は平成7年度より広島藩大坂蔵屋敷跡の発掘調査を進め、今年度は平成8年度の調査で部分的に確かめられた船入<sup>ふないり</sup>の全体と、東に広がる屋敷地の調査を行いました。

### 「天下の台所」と蔵屋敷

江戸時代の中之島・堂島とその周辺には、諸大名が領内で集めた年貢米や特産物を販売するために、それらを保管する倉庫と邸宅を兼ねた蔵屋敷が集中していました。その数は元禄年間（1688～1705）から増え、天保年間（1830～44）には124邸にのぼりました。当時の大阪は全国から物資が集まり、再び各地に流れていく、まさに「天下の台所」でした。その意味で蔵屋敷は「天下の台所」の象徴といえるでしょう。また、近年の研究では、このような蔵屋敷の経済的機能の他に、文人や町人たちとの交流といった社会的・文化的な機能も注目されています。

### 広島藩と大坂蔵屋敷

広島藩浅野家42万6千石は、安芸国全域と備後国の半分以上、つまり現在の広島県の大部分を占める大藩です。村ごとに集められた年貢米は広島城下や海辺の町（三原・尾道・竹原など）の蔵に納められ、地元で消費される分を除いて、大坂へ運ばれました。大坂へ運ばれる米の量は年間8万石（12000トン）に及びました。大坂へ運ばれた米はいったん蔵屋敷に納められ、蔵元（鴻池善右衛門）の手で入札によって米仲買たちに売り渡されました。落札した米仲買たちは堂島の米市場でこの米切手を売買して、最終的に米切手を入手した者が、実際に蔵屋敷で米切手と米を交換しました。広島米は、加賀米（加賀藩）・筑前米（福岡藩）・中国米（長州藩）と並ぶ堂島米市場での主要な取引米のひとつでした。また、鉄や紙といった特産物も蔵屋敷に運ばれ、大坂で売りさばられました。

### 広島藩大坂蔵屋敷

多くの蔵屋敷のなかでも、広島藩浅野家蔵屋敷は坪総数3900坪と最大級の規模を誇っていました。広島藩大坂蔵屋敷の東西には大きな蔵屋敷が建ち並んでいました。さいわいなことに広島藩蔵屋敷には慶応2（1866）年に描かれた「芸州大坂御屋敷全図」が残っており、幕末の蔵屋敷の詳細について知ることができます。

この絵図によると、表口（南側）48間（約94m）、裏幅（北側）46間半（約91m）、奥行きは東側82間（約160m）、西側87間（約170m）の敷地を有していました。

藩主が参勤交代の途中に滞在する時などに利用する御殿、大阪に滞在している役人が事務を執る役所や居住する長屋、米や特産物を収納する米蔵や鉄蔵、蔵への荷揚げのため北を流れる堂島川から屋敷内に船を入れる施設である「船入<sup>ふないり</sup>」などが設けられていました。この「船入」は堂島川沿いの佐賀藩や久留米藩など8つの大きな蔵屋敷にのみにあった施設でした。また、稻荷社や地元宮島の蔵島神社も蔵屋敷内に祀られていました。

### 見つかった遺構

幕末の地表面は現在の地面から約2m下にあります。船入は高いところでは約3mの石垣で護岸され、その規模は南北約47m、東西約51mありました。船通しの近くや、北東隅には階段が設けられており、南岸には雁木<sup>がんぎ</sup>と呼ばれる階段状の施設も見つかっています。船入の北岸を拡張するなど、現存する絵図から予想されていた船入の改修・変遷の具体的な状況が今回の発掘で明らかになりました。当時の水面は石垣に残る色の違いや杭の腐食している位置から、底から0.8～1.2mほどの高さであったと考えられます。

敷地東側の屋敷地については、蔵の基礎と思われる礎石列や、井戸、ゴミ穴などがみつかっています。絵図に描かれたどの場所にあたるかは、現在調査中です。

### 出土した遺物

船入の底にたまった土からは、荷物を運ぶ時に使った手鉤、荷物に付けられた木簡（今回100点以上、平成8年度調査分を合わせると400点以上）のほか、ヨーロッパ陶器や清朝磁器など、蔵屋敷の住人の営みをリアルに物語る資料が出土しています。木簡の中には明治になってからのものもあります。一般に蔵屋敷は明治になるとほとんど機能しなくなったとされていますが、これは明治になってからの蔵屋敷のようすを知る手がかりになるでしょう。

### < 広島藩大坂蔵屋敷略年譜 >

元和5年(1619)	当地に蔵屋敷地を取得
元和6年(1620)	中之島の蔵屋敷完成
寛永2年(1625)	敷地を拡張し総坪数約3900坪となる
元禄5年(1692)	鴻池善右衛門、蔵元になる
慶応2年(1866)	「芸州大坂御屋敷全図」
明治4年(1869)	廃藩置県により広島県大阪出張所となる(翌年廃止)
明治12年(1879)	屋敷跡地に府立大阪病院(後に阪大病院)が新築移転

### < 参考文献 >

- 伊藤純・豆谷浩之「新出広島藩大坂蔵屋敷絵図について - 浅野文庫本絵図の紹介」『大阪の歴史』51 1998  
『広島藩大坂蔵屋敷跡』大阪市文化財協会1997  
藤本 篤「天下の台所」『まちに住まう』平凡社1989  
『新修 大阪市史 第3巻』1989  
佐古慶三「広島蔵と鴻池」『広島商大論集』5-1 1968



図1 調査地の位置

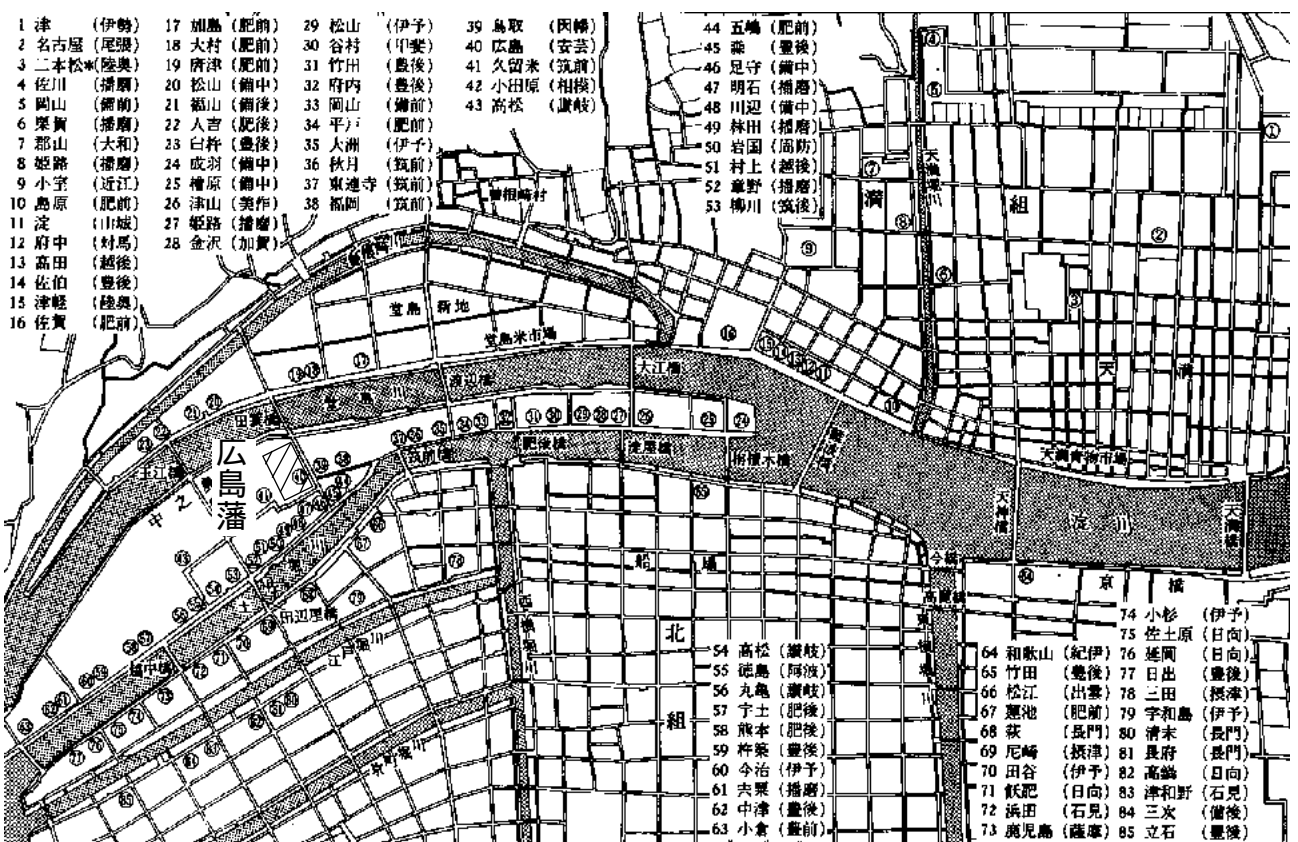


図2 蔵屋敷分布図 (『新修大阪市史』3より)

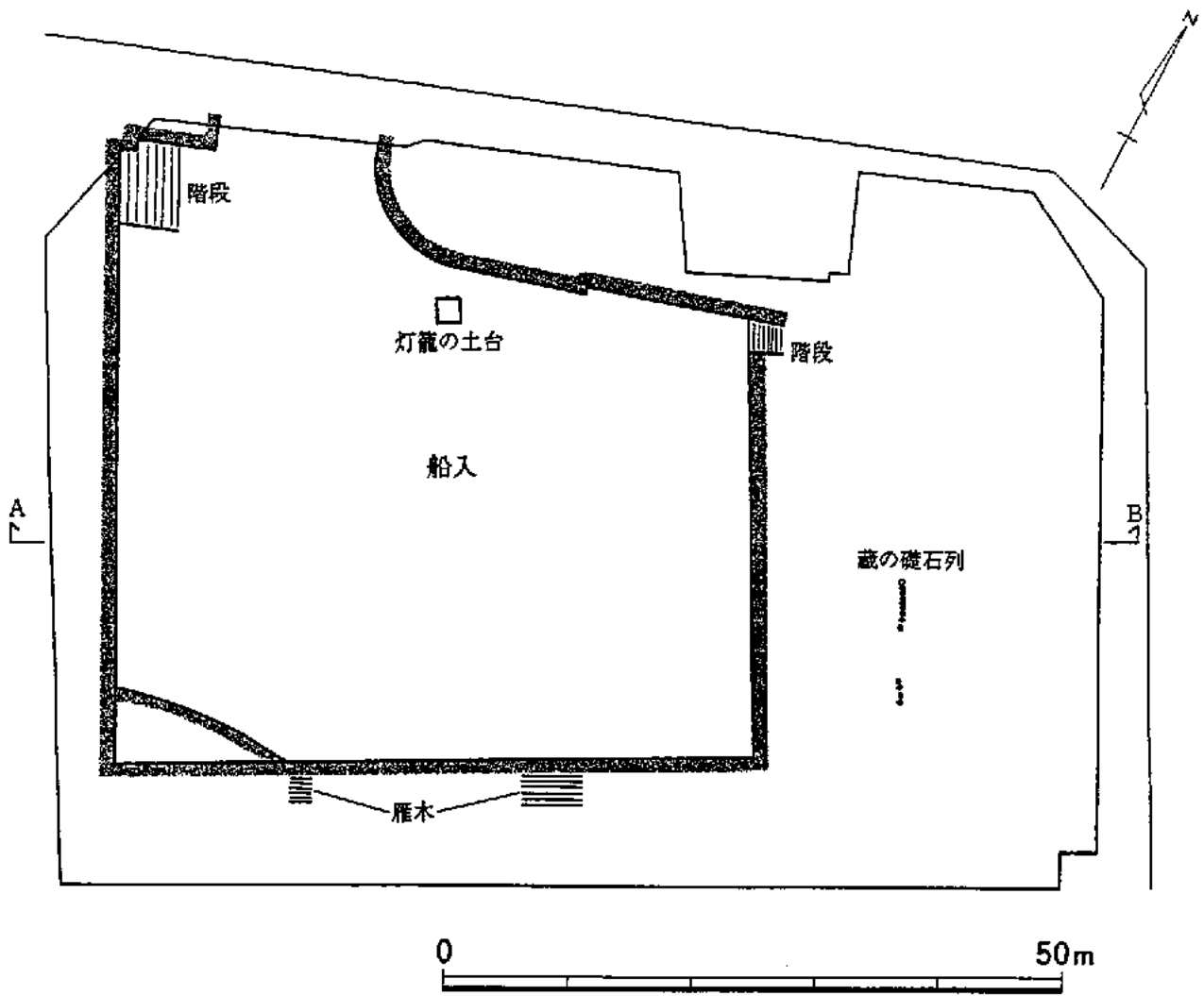


図3 調査区平面図

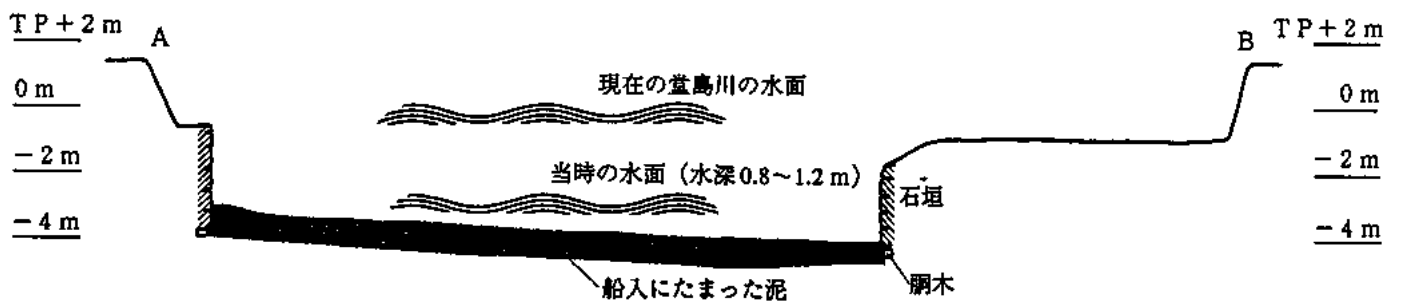


図4 船入東西方面 (A-B) 地層断面模式図

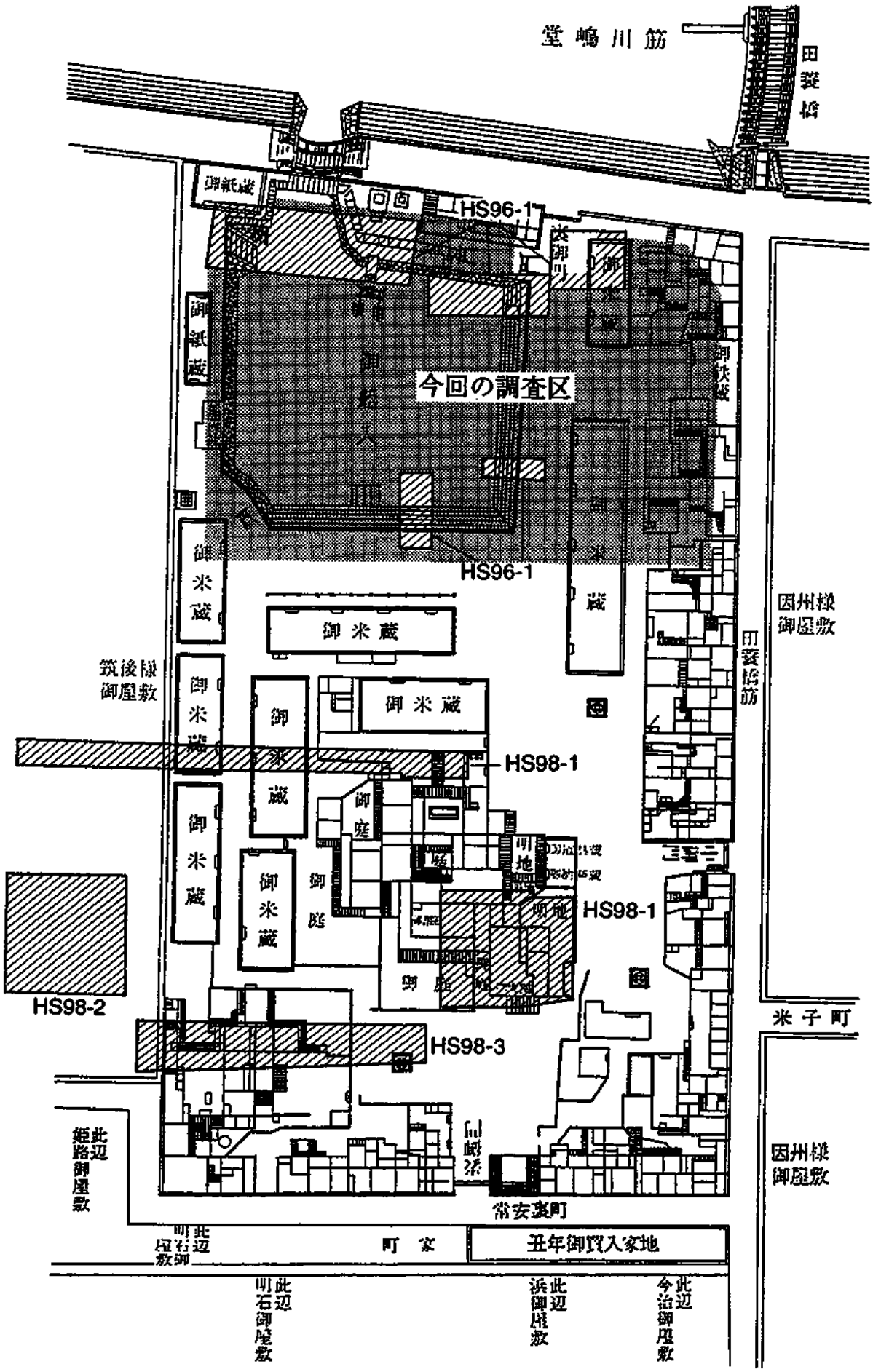


図5 調査区の配置（絵図は「芸州大坂御屋敷全図」慶応2（1866）年）  
各調査区は絵図のおおよその位置を示す。

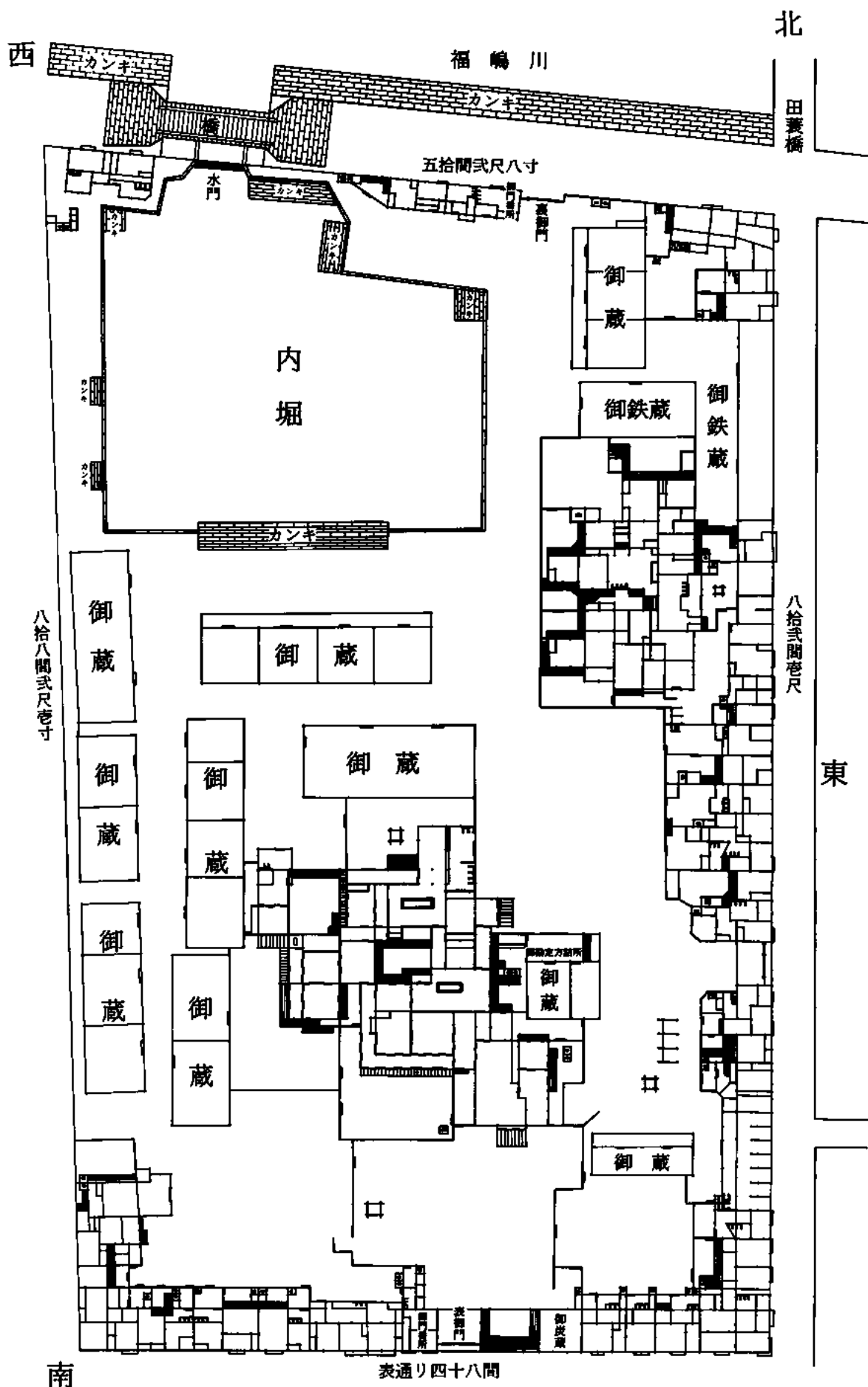


図6 「大坂中ノ島御屋敷敷絵図」(伊藤・豆谷論文より)  
「芸州大坂御屋敷全図」より古い時代に描かれたもの

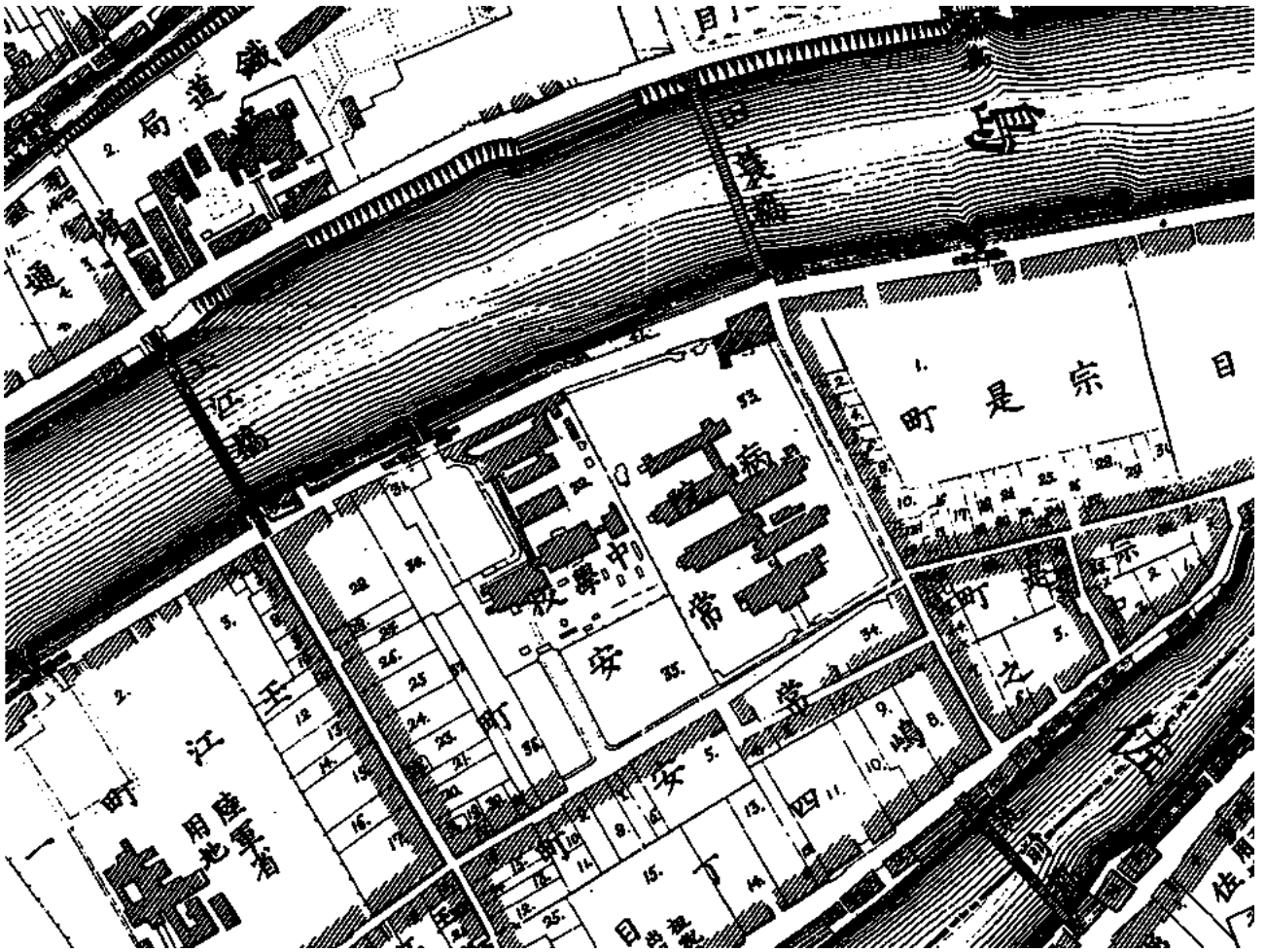
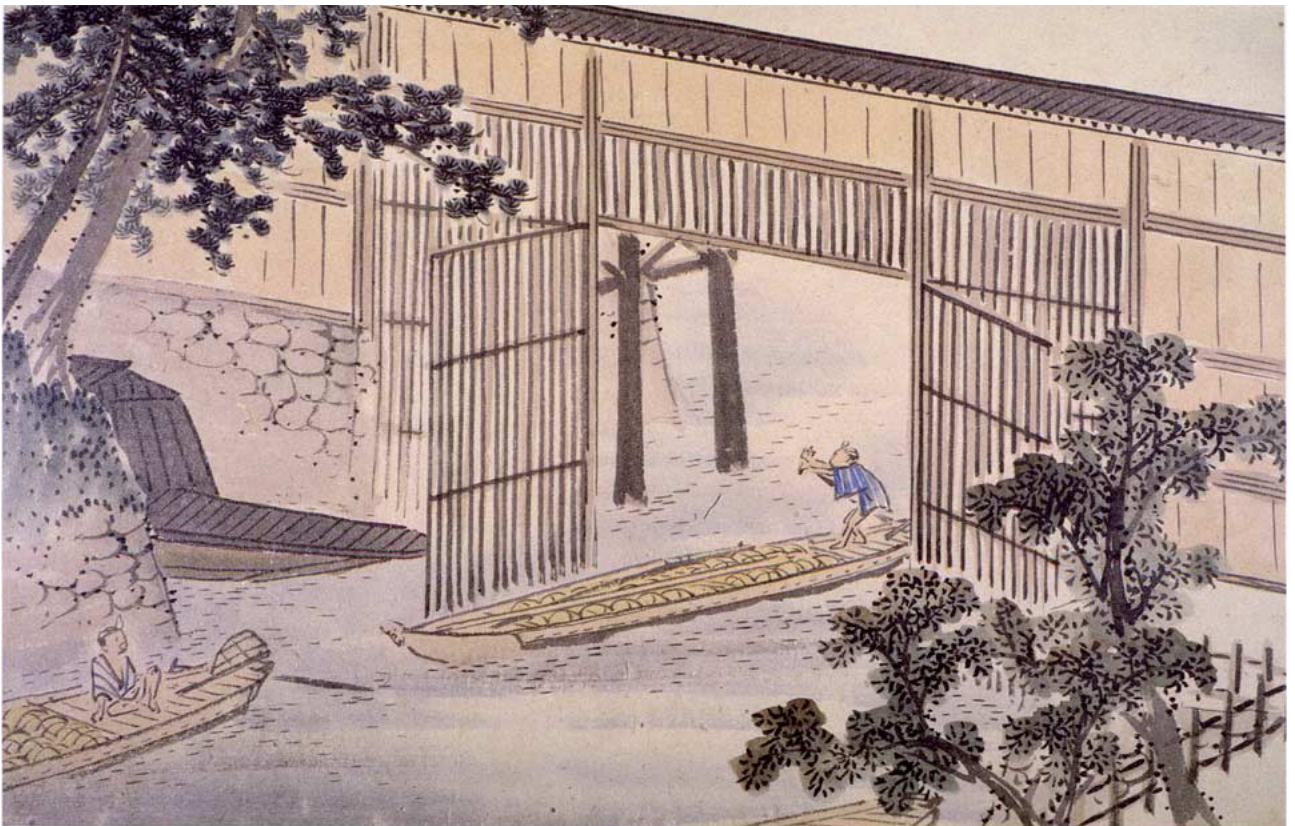


図7 明治19(1886)年当時の調査地(『大阪実測図』より)  
久留米藩の船入の輪郭がみえる



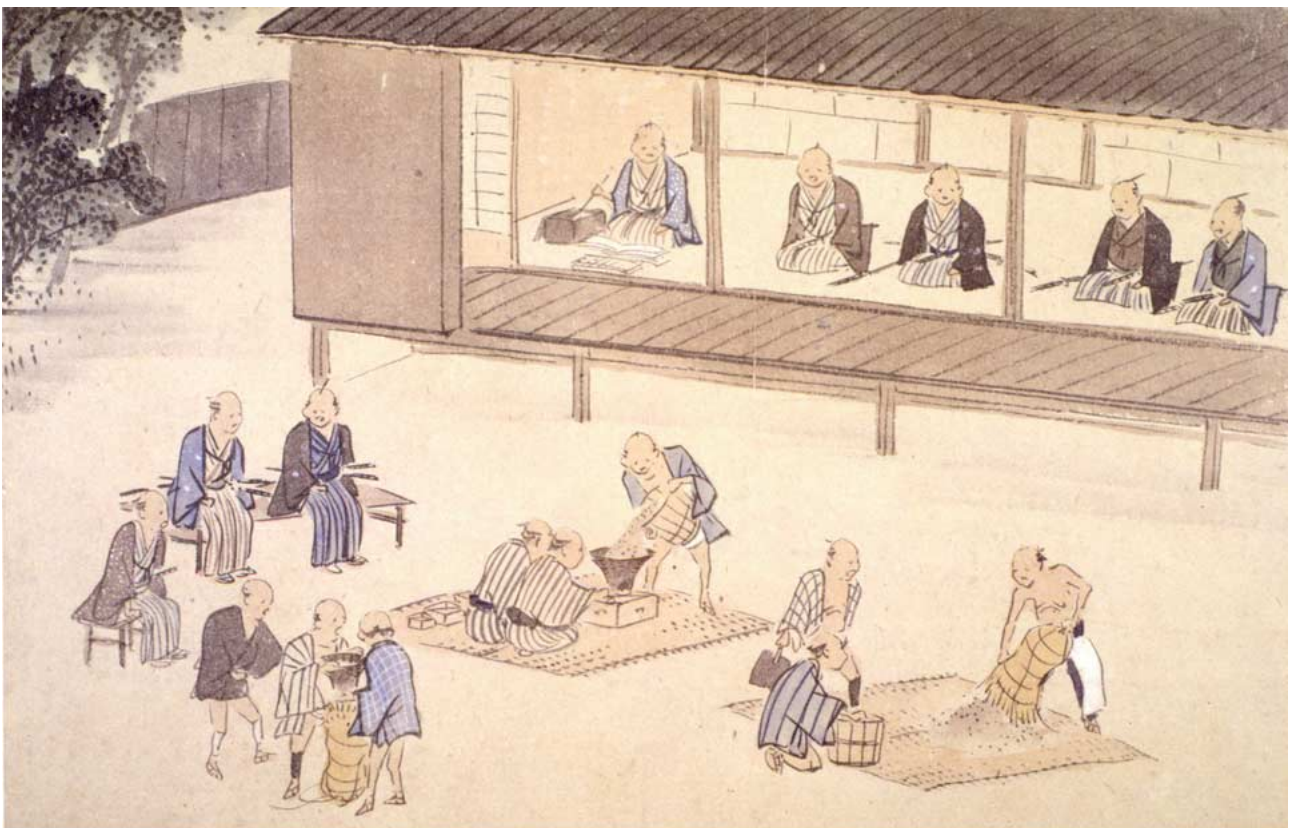
構内船入れ

図8 『久留米藩蔵屋敷図屏風』より



着船・荷上げ

図9 『久留米藩蔵屋敷図屏風』より



米の仕分け

図10 『久留米藩蔵屋敷図屏風』より